

## N-3 : 参加者ネットワーキング

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 10:45 - 12:15 会場F

### オープン化、国際化の時代における協力関係構築の ベネフィットとリスクマネジメント ～大学・研究マネジメントのあり方を考える～

オープンサイエンス、共同研究や頭脳循環などの国際化の潮流が顕著になる中、近年、それに伴うリスクの懸念が世界各国で高まっている。例えば、米国では外国の資金提供を受けた研究者が各種法令違反の容疑で逮捕される事案が多発し、また、我が国においても統合イノベーション戦略2020に機微技術流出防止が大きく取り上げられるなど研究の安全保障が議論されるようになってきている。一方、自由な基礎研究まで規制されかねない動きに対して、米国NSFが「JASONレポート」を基に「リサーチインテグリティ」の確保によって対応しようとしたり、OECDでもプロジェクト化されるなど、米国をはじめ国際的に取組が進んでいる最中である。これまで大学においては、リスク・利益相反のマネジメントは産学連携や安全保障技術貿易管理の政府規制で別個対応していたが、大学として研究者がリスクにさらされることのない研究環境を確保するとともに、総合的に「大学のインテグリティ」を確保する必要性が増してきてはなからうか。JST/CRDSで「リサーチインテグリティ」調査のリーダーであり、OECDの議論にも参画しているファシリテータが関連情報や動向を共有した上で、参加URAの間で課題や事例の共有化したりするなどのネットワーキングを通じて今後の活動のあり方など幅広く検討する。

### セッション担当者(ファシリテーター)



宮地 俊一：科学技術振興機構 研究開発戦略センター  
科学技術・イノベーション政策ユニットフェロー

文部科学省入省後、STI政策に関する基本政策、調査分析・研究、EBPM、医療研究・研究法人所管などを担当。とりわけ高等局との併任による研究人材政策担当時にSTI政策における大学マネジメントやURAの役割の重要性を痛感して以降、担当内外を問わず積極的に意見交換の実施や連携を模索。文科省より出向し本年4月より現職。本協議会へは3年連続3回目の参加。



丸山 浩平：早稲田大学 リサーチイノベーションセンター  
研究戦略部門 教授

JUKI(株)にて産業用機械のR&D、技術戦略企画、新規事業開発等を担当した後、早稲田大学でバイオセンシング研究に従事。2009年から同大学研究戦略センター(URA組織)の立上げに参画し、複数の大学で全学的な研究力強化などURA活動に従事。JST・CRDS特任フェロー兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。国際研究交流を推進するURAの方々、技術流出などリスクマネジメントのあり方を考えたいと思います。